



令和7年度 東京都立青鳥特別支援学校 経営報告

校長 高橋 馨

I 今年度の取組と自己評価

令和7年度も『優しく』を全ての活動における取り組み姿勢の基本とし、学校経営を進めてきた。ここでいう『優しく』とは「優しく 心を込めて 丁寧に伝えることで、知識や技術、感情や思い、様々なことが伝わり、そして繋がっていく」ことを意図している。この、「優しく」に込められた思いを組織全体で共有するために、『優しく』の姿勢は生徒との学習場面だけでなく、保護者はもちろん、教員同士の分掌業務をはじめ全ての場面、取組において、同様であること日常的に伝え、定着するよう努めてきた。

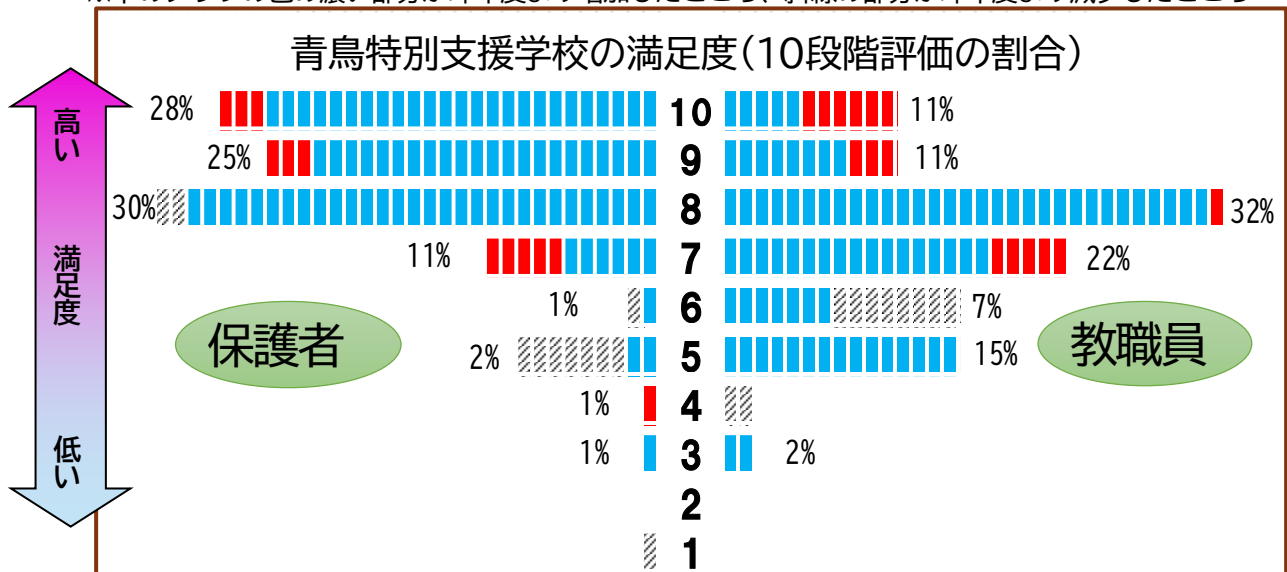
学校評価については、日常的に感じている学校の満足度をより直感的に反映できるよう、昨年度の最終設問であった10段階評価による「学校の満足度」を、最初の設問となるよう順番を変更した。加えて、保健・給食の項目を立てることで、校内組織とより関連付けて評価できるよう改善した。保護者、教職員共に、学校経営が改善の方向に進んでいるという評価が、数値から読み取ることができた。また、自由記述の中には『優しく』について肯定的に言及する意見が多くみられ、『優しく』が基本姿勢として着実に定着してきていることも読み取れた。学校評価の詳細は以下のとおりである。

※項目毎に自己評価を5段階で示す。(自己評価【大いに達成:◎ 達成:○ 一部達成:△ 未達成・未実施:×】)

1 学校の満足度 **保護者(94%) 教職員(76%) 肯定的評価** 【自己評価:◎】

上記の数字は7点以上を肯定的な評価とし、その割合を算出したものである。10段階評価の平均は、保護者:8.51(7.98)、教職員:7.39(6.72)でどちらも()内の昨年度の数値より向上している。

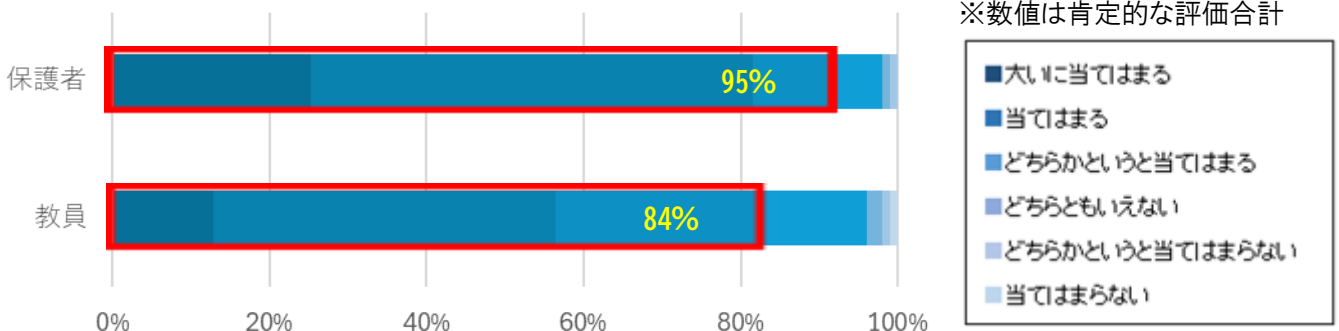
※下のグラフの色の濃い部分が昨年度より増加したところ、斜線の部分が昨年度より減少したところ



2 重点のとりくみについて 【自己評価:◎】

学校は、「優しく」をキーワードに、全ての活動において「心を込めて、丁寧に」の姿勢で、ウェルビーイングの向上、DXの推進、専門性向上と人材育成に、取り組んでいる。~についての回答

※数値は肯定的な評価合計



3 学校運営全般

※ 保護者・教職員の数値は、各項目の満足度(10点満点)の平均点と、7点以上(肯定的評価)の評価の割合。
生徒は、各項目の肯定的な数値の合計で、複数の数値がある項目は平均で算出している。

<学習指導> 保護者:8.16(92%) 教職員:7.20(74%) 生徒(79%) 【自己評価:○】

学習指導全般について、保護者からは高い評価を得ることかできた。中でも作業学習(普)、職業に関する専門教科(職)については回答者の75%の方が良いと感じている。課題として指摘された項目は「授業内容」が12%の方から、「一人一台端末の活用」については10%の方から課題ありの指摘があった。しかしながら、この二つの項目については、良いという回答も同数以上の方から得ている。このことから、「取組み」そのものよりも、提供する内容がニーズに合っていないことが考えられる。次年度に向けては、個別指導計画を活用した保護者との目標共有を、より丁寧に進めることで改善を図る。

読書活動については「良い」「課題あり」どちらの回答も少ない結果となっている。活動内容が伝わる情報発信に努め、読書活動への関心を高めることで評価に反映させていきたい。

<進路指導・キャリア教育> 保護者:7.57(85%) 教職員:8.11(89%) 生徒(81%) 【自己評価:△】

「進路先の情報提」の項目について「課題あり」の数値が突出して目立っている(課題あり全体の44%)。昨年度も同じ状況であり、今年度は改善に向け、オンデマンドによる進路情報の提供や、福祉就労先の情報を集約した冊子の作成に取り組んできた。その結果、「良い」という回答が「課題あり」の回答数を超えるなど一定の成果を上げることができた。自由記述の意見から、卒業生のお話を聞く機会や、各施設での具体的な活動の様子など、より具体的な情報が欲しいという声があった。次年度に向けて、進路に関する情報について、学校が伝えたい情報だけでなく、保護者の知りたい情報を丁寧に把握・共有し提供できるよう進路指導部を中心に努めていく。

<生活指導> 保護者:8.23(90%) 教職員:7.34(79%) 生徒(77%) 【自己評価:○】

日々のスクールバスの対応も含め、生活指導全般に高い満足度を得ることができている。引き続き安定したスクールバス業務の運営に向け、次年度からはスクールバス部として独立させ、安定した業務の継続を図る。また自由意見に2件、性に関する指導についての記述があった。次年度から配置予定の婦人科学校医による相談につなげるなどして、家庭と連携した個に応じた丁寧な指導に努めていく。

<特別活動・総合的な探究の時間> 保護者:8.35(90%) 教職員:7.06(67%) 生徒(86%) 【自己評価:○】

保護者アンケートからは、改めて行事や部活動への関心度の高さが読み取れる結果となった。仮設校舎3年目となる今年度、過去の経験・反省を改善につなげてきたことで、体育祭については回答者の80%以上の方が「良い」と答えるなど、成果を上げる事ができた。同様に各行事についてもPDCAサイクルで着実に改善を進めることで、制限はありながらも満足感を得られる取り組みを実施できるよう努めていく。部活動については、引き続き指導体制の課題が残る形となっている。高等部の生徒にとって重要な取組の一つととらえ、引き続き持続可能な運営について組織として検討を継続していく。

<保健・給食> 保護者:8.73(93%) 教職員:8.17(88%) 生徒(--%) 【自己評価:△】

自由記述16件については全て給食に関するものであった。今年度から再開した給食試食会は高評価を得ており、継続の予定で計画している。一部の保護者から給食の量(足りない)についての意見が散見された。個別に対応を図るよう共有していく。

<学校経営> 保護者 8.39(91%) 教職員 7:29(75%) 生徒(--%) 【自己評価:△】

保護者の数値結果からは目立った課題は見られなかった。昨年度の評価結果を受け改善に取り組んだ情報発信については、今年度から外部人材を活用したセイチョームービーの配信を行い、全作品の合計視

聴回数 11,000 回を超える成果を上げている。しかしながら自由記述にはXを活用したさらなる情報発信を求める声も 4 件あった。ニーズに合った情報の提供や発信量の充実と全体的な業務縮減のバランスを図りながら、引き続き情報発信の改善に取り組んでいく。

4 数値目標の取り組み結果 【自己評価:大いに達成:◎ 達成:○ 一部達成:△ 未達成・未実施:×】

(学習指導)	▶ 研究授業(各教員年1回以上)	【○】
	▶ 満足度平均(保:8.0以上、教:7.0以上)	【◎】
(進路指導・キャリア教育)		
	▶ 卒業生の進路先決定(100%)	【○】
	▶ 卒業生の企業就労100%(職)	【×】
	▶ 進路指導の満足度平均(保:8.0以上、教:7.0以上)	【×】
(生活指導)	▶ 生徒事故 0件	【×】
	▶ 生活指導の満足度平均(保:8.0以上、教:7.0以上)	【○】
(特別活動)	▶ 各部活動大会等参加(各年1回以上)	【○】
	▶ 特別活動・探究・部活動の満足度平均(保:8.0以上、教:7.0以上)	【○】
(入学相談・募集・広報活動)		
	▶ 職能開発科説明会参加者(450人以上)	【○】
(保健指導・給食)		
	▶ 生徒のメンタルヘルスケア・医ケア・アレルギー対応研修(年5回以上)	【○】
	▶ 保健・給食の満足度平均(保:8.0以上、教:7.0以上) ※生徒:未実施	【△】
(学校経営)	▶ 人権に関する研修(年3回以上) ⇒ 4月、10月、12月、2月	【○】
	▶ 八丈分教室への校長訪問(年10回以上)	
	⇒ 4月、6月、7月、9月、10月、12月、1月、3月、入、体、八、相、卒	【◎】
	▶ 月45時間超過勤務者(月平均0名以下)	【×】
	▶ 大学や地域との連携(10団体以上)	【◎】
	⇒昭和女子大、テンプル大、日本大、白百合女子大、東洋大、もみの木保育園 三宿中学、下馬図書館、下馬二丁目町会、世田谷区まちづくりセンター 四二〇商店会、tokyo coffee Lab. 他	
	▶ 服務事故(年0件)	【○】
	▶ 学校の満足度平均(保:8.0以上、教:7.0以上 ※生徒:90%以上)	【○】
(学校事務)	▶ 学校事務に関する事故(年0件)	【○】

II 翌年度以降の課題とそれに対する改善策

埋蔵文化財により建設が遅れている池尻の新校舎は、発掘規模が想定以上に大規模であったことや、昨今の建設業界の労働市場の変化により、1年半の再延長が確定した。これにより、令和12年1学期までの4年半、現在の三軒茶屋校舎で学習することとなる。仮設の限られた環境・条件の中、生徒・保護者・地域のニーズをしっかりと見極め、限られた資源を進むべき方向に着実に注力するような学校経営が求められる。そのためにも、引き続き「優しく」の基本姿勢で、生徒・保護者だけでなく教職員のウェル・ビーイングも高めながら、組織力を発揮できる学校運営に努めていく。学校評価や、取り組み毎のアンケート結果に基づいた、学習活動の改善・充実を進めることで、生徒・保護者の満足度を維持・向上させていく。